

令和元年6月3日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16724

研究課題名（和文）フランス革命後におけるルリユールの展開：製本術と装幀デザインの変容に関する研究

研究課題名（英文）The Development of Handicraft Bookbinding After the French Revolution: Study of the Bookbinding Techniques and Decorative Patterns

研究代表者

野村 悠里 (Nomura, Yuri)

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・助教

研究者番号：70770288

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：二十世紀初頭まで、パリの書店では仮綴本が販売され、読者は好みに応じて製本工房に革装本を注文することを行っていた。製本職人は革で本を装幀し、箔押し職人は金箔で表紙装飾を行った。本研究は、十九世紀におけるフランスの手工芸製本の展開を分析するものである。製本は本の内と外にさまざまな情報を持っており、本の歴史や読書の形態を解明することにつながる。本研究では製本の綴じの技術と表紙装飾のパターンを分析し、製本の構造的特徴、箔押し道具、工房で用いられる多様な素材を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

装幀は表紙の外観が着目されることが多いが、本研究では製本の綴じの技術と表紙装飾のパターンを分析し、本の内と外に残された情報を読み解くことを行った。現代では書物の形態は多様化し、読書方法も変わりつつある。紙を綴じることが失われつつある現代において、歴史的な製本技法を再考することは、どのように書物を保存し継承していくべきかという文化的問題を考察することでもある。十九世紀における製本の構造的特徴や製本職人の技術を解明できたことは、学術的にも社会的にも意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Until the early twentieth century, bookstores in Paris sold temporary bindings and readers brought them into bookbinding workshops to order leather bindings according to their preference. Bookbinders covered books with leathers, while gilders decorated covers with gold leaves. This research aims to shed light on the development of French handicraft bookbinding in the nineteenth century. Bookbinding structures include various information of internal and external features to trace the history of books and reading. Focusing on two aspects, including bookbinding techniques and decorative patterns, the study examines structural elements of bindings, gilding tools and various materials applied by bookbinders' workshops.

研究分野：製本史

キーワード：ルリユール 製本 装幀 デザイン 箔押し 工房 職人 保存

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

二十世紀初頭まで、パリの書店では仮綴本が販売され、読者は好みに応じて製本工房に革装本を注文するを行っていた。製本職人はモロッコ革や仔牛革で本を装幀し、箔押し職人は金箔で表紙にする装飾を行っていた。フランス語の「ルリユール(reliure)」は、「工芸製本」や「装幀美術」と訳されるが、元来は「綴じること」を意味している。現代ではルリユールを担う製本職人や箔押し職人は僅かであるが、伝統的な手工芸として継承されている。

(1) 従来のルリユールの歴史研究では、装幀の年代による様式や箔押し紋章による所蔵者の特定が重視されてきた。とりわけ金箔押しの装幀とえば、表紙の外観や華麗なデザインが着目されてきた。職人に焦点をあてた製本の技術的分析や構造的特徴については十分に検討されてこなかったと言える。

(2) これらの状況を踏まえ、これまでの研究としては、アンシャン・レジーム期における職人組合の成立と王室製本師任命期における製本技術の発展を分析してきた。製本と仮綴本という二つの流通形態が生まれた歴史を辿るべく、十七世紀後半の王令によって出版業者組合が分割され、製本職人・箔押し職人組合と書籍商・印刷業者組合が誕生した経緯を考察し、各々の組合が制作工程や材料に法的規制を受けたことを検討した。

(3) 研究の結果、書物の需要が増加し、組合間の職域紛争が頻発する中で、製本工房では競合する書籍商、印刷業者、家具金箔押し業者等に対抗して、製本・箔押し工程を簡略していったことが明らかとなった。王令では、製本職人・箔押し職人組合に「真(vrais)の綴じ」という技法を義務付けていたが、厳罰を科した規制にもかかわらず、実際には「偽(faux)の綴じ」というより簡便な手法が広まっていった。先行研究では十九世紀初めとされる製本技法が、フランス革命以前の早い段階で浸透していたことが解明された。

2. 研究の目的

本研究は上記の研究成果を踏まえつつ、フランス革命によって製本職人・箔押し職人組合が解体され、王室製本師の任命が廃止された後の十九世紀のルリユールについて、製本術と装幀デザインがどのように変容したかを検証することを目的とした。製本は本の内と外にさまざまな情報を持っており、本の歴史や読書の形態を解明することにつながる。本研究では製本の技術と表紙装飾のパターンに着目し、製本の構造的特徴、箔押し道具、多様な素材を検討することを行った。具体的には、製本職人の手仕事に焦点をあて、以下の二点を解明することを目指した。

(1) 第一は、「本の綴じ」の製本技術である。表紙で包まれると分からなくなる本の内部構造を、製本職人による手仕事という観点で捉え直し、技術上の工夫と工程のプロセスを明らかにすることを目標とした。出版業者が製本職人・箔押し職人組合と書籍商・印刷業者組合が二つに分けられていた時代は、技術や素材の使用法にさまざまな制約があった。本研究では十八世紀の製本技法が、読書の形態の変化と共に、十九世紀以降はどのように変化したのか、さらに「偽の綴じ」が一般化することでもたらされた工程の変化を分析することを目標とした。

(2) 第二に、「表紙装飾」の箔押し技術である。前述のように先行研究では、装幀とえば、表紙の金箔押しの様式を分類することが多かった。本研究では、箔押しのデザインを外観の印象から分析するのではなく、紋様のパターンを構成するさまざまな箔押し道具の型から検証することを目標とした。とりわけ、当時の量産本の装飾技術と比較をしながら、手工芸製本におけるデザインの制作工程を考察することを試みた。

3. 研究の方法

フランス革命は手工業組合の解体と商業の自由がもたらしたが、王権の庇護や王侯貴族の注文主を失った製本職人の多くは、産業革命によって機械化や量産化を展開しつつあったイギリスに亡命した。十九世紀初頭から中庸は、フランスの手工芸製本が停滞した時期とされ、当時の蔵書家や愛書家は、十六世紀から十八世紀に見られたルリユールの栄光は失われたと評していた。十九世紀初頭に一時的に復興するにしても、装幀デザインの主流を司る王室製本師による活動が途絶えたことの影響は大きかった。

(1) 本研究では研究分析の方法として、第一に、十九世紀以降においてどのような製本職人が活動をしていたのか、製本業を営んだ工房の全体像を検討することを行った。十八世紀から継続した製本工房、十九世紀に開業した工房、新規参入の他業種という系譜の異なる工房について、資料調査と分析を実施した。

(2) 第二は、十九世紀に執筆された製本技術書や職人による出版物等の分析である。これまで実施してきたアンシャン・レージュム期の製本技術の研究と合わせ、十七、十八世紀に出版された製本技術書や百科全書と比較した上で、製本および箔押しの変化する工程上の変化を解明することを試みた。また、発展的な分析方法として、イギリス、ドイツ、オランダ等の他のヨーロッパ諸国における技術書との比較を実施した。

(3) 第三に、現存する装幀作品の調査である。総革装および半革装について、製本の各部分の構造や形態を分析し、「本の綴じ」について検証することを行った。また、総革装の金箔押しについて「表紙装飾」の制作工程を分析した。特に、箔押し職人の用いる多様な道具の型に着眼し、読者層の広がりとともに多様化していた量産本の装飾や素材との比較も行った。

4. 研究成果

(1) 初年度にあたる平成二十八年度は、製本業を営んだ工房についての資料収集に重点的に取り組み、店舗の分布等、組合解体後の職人の活動についての全体像を検討することを行った。革命以前から製本業を継続した工房、十九世紀に開業した製本工房、新規参入の他業種について、世代間における継承や工房の開業について動向を追った。研究成果として、同業者組合の解体後、製本職人および箔押し職人の多くは国外へ亡命し、製本工房の開業地域はパリ大学から周辺地区、さらには地方へと分散していった経緯が明らかとなった。新たに新規参入した他業種が、各種の製本展覧会の開催、愛書家や蔵書家の批評活動と共に、十九世紀後半には一種の芸術家として活躍していく過程も辿ることができた。

(2) 初年度および第二年度にあたる平成二十九年度は、十九世紀の製本技術書について分析を行った。製本技術書については、先行研究としてヨーロッパの技術書を一覧にした G. ポラードの書誌学研究(1984)があるが、フランス革命後の現存する主な資料として、科学者ルノルマン著『製本職人ためのマニュアル』と製本職人レネによって執筆された『ルリユール』が挙げられている。『ルリユール』は、製本職人の作業工程を詩歌として記録したものであり、体系だったものではなく、記述は難解とされてきた。本研究ではパリ国立聾学校に残されたレネの執筆による別の技法書の存在に着眼し、それを手掛かりに『ルリユールの歌』の解説と検討を試みた。また、産業奨励会に提案されていた「保存製本」という製本形態についても分析できたことは、製本史における新たな分析視点であり、他国との比較という点においても本研究の大きな成果となった。

(3) 最終年度にあたる平成三十年度は、初年度より継続してきた装幀の実物調査に重点を置きながら、十九世紀の製本技術書については関係する歴史資料の収集を継続した。さらに、製本の蔵書家や愛書家による批評についても資料収集と分析を試みた。特に「本の綴じ」については、製本技術書の考察で得られた十九世紀の製本工程に関する知見を基礎としながら、総革装および半革装について「真の綴じ」と「偽の綴じ」の検証を行った。また、装幀の外観から調査できる項目として、①表紙のひら、②天小口、③コワフ、④バンド、⑤背のバンドとバンドの間、⑥背、⑦前小口、⑧地小口、⑨花布、⑩チリの各部分のデータを収集することができた。本の内部の調査としては、⑪背の綴じ方、⑫背の裏打ちの材料、⑬見返し、⑭ボードと表紙の接着等を検証し、構造上の特徴に関して考察を行った。「表紙装飾」については、特に総革装の金箔押しデザインの調査から、紋様を構成する箔押し道具の型を分析し、制作工程の特色を分析することを試みた。

(4) 装幀は外観が着目されることが多いが、製本は内と外にさまざまな情報を持つ。本研究の成果として、製本の技術と表紙装飾の分析から、製本の各部分の構造的特徴、箔押し道具の特質、工房で用いられた多様な素材の使用等が明らかとなった。製本構造の綴じに着眼した拙著『書物と製本術—ルリユール／綴じの文化史』は、第三十九回日本出版学会賞(平成二十九年度)奨励賞を受賞した。また、同書および論文「ルネサンス期のルリユールド・トゥの紋章本」(『日仏図書館情報研究』第40号)、「十九世紀初頭のルリユール：王立聾学校製本 教授マチュラン＝マリー・レネによる「保存製本」」(同第42号)により、第八回日仏図書館情報学会奨励賞(平成二十九年度)を受賞することができ、製本術と装幀デザインに関する一連の製本史研究を大きく進捗させることができたと思う。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 5件)

- ① 野村悠里、オクターヴ・ユザンヌの装幀芸術考、仏語仏文学研究、52、2019、掲載予定、査読無
- ② 野村悠里、ルリユールとジャポニスム、日本近代文学館館報、285、2018、2-3、査読無
- ③ 野村悠里、ルリユールの歴史を辿る研究、日仏図書館情報学会ニューズレター、224、2018、3-4、査読無

- ④ 野村悠里、十九世紀初頭のルリユール：王立聾学校製本教授マチュラン＝マリー・レネによる「保存製本」、日仏図書館情報研究、42、2018、15-30、査読有
- ⑤ 野村悠里、革装本を照らす明かり、三田評論、1216、2017、99、査読無

〔学会発表〕（計 4 件）

- ① 野村悠里、ルリユール・綴じの文化史（招待講演）、日本出版学会、2017
- ② 野村悠里、第六回文化資源学としての「本」：読者と読書、人文科学ゼミナール（東京大学）、2017
- ③ 野村悠里、第五回文化資源学としての「本」：「本」の科学、人文科学ゼミナール（東京大学）、2017
- ④ 野村悠里、第二回文化資源学としての「本」：「本」の保存、人文科学ゼミナール（東京大学）、2017

〔図書〕（計 1 件）

- ① 野村悠里、みすず書房、書物と製本術——ルリユール／綴じの文化史、2017、248

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：